

めぐみイエス・キリスト教会

2024年3月31日(日) イースター特別礼拝

午前10時より

週報「通算第701号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】	
【賛美Ⅰ】	新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150
【交読文】	No.40 詩篇第126篇 p. 911
【賛美Ⅱ】	新聖歌127「墓の中に」 p. 453
【使徒信条】	
【主の祈り】	
【先週説教】	
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「復活の日の朝」
【聖書朗読】	ヨハネの福音書20章19節～23節
【礼拝説教】	《週の初めの日の夕方(復活)》
【聖餐式】	
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
【平和祈り】	
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
【祝祷後奏】	

※本日の聖書箇所 (ヨハネの福音書20章19節～23節)

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わします。」

20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

●ポイント1.「十字架と復活の預言」とは？

※マタイの福音書20章17節～19節「三度目の受難予告から」

20:17 さて、イエスはエルサレムに上る途中、十二弟子だけを呼んで、道々彼らに話された。

20:18 「ご覧なさい。私たちはエルサレムに上って行きます。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子を死刑に定め、

20:19 異邦人に引き渡します。嘲り、むちで打ち、十字架につけるためです。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

●ポイント2.「最初の復活の証人」とは？

※マルコの福音書16章9節「別の追加文から」

16:9 [さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現わされた。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。

16:10 マリアは、イエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いている所に行って、そのことを知らせた。

16:11 彼らは、イエスが生きていて彼女にご自分を現わされた、と聞いても信じなかった。]

◎先週の礼拝メッセージ【シュロの日曜日と十字架】

《主イエスと弟子たちの一行は、「過越の祭の六日前」に、ベタニアにやって来ました。ベタニアとは、「悩みの家」という意味で、エルサレムの南東約3キロ、オリーブ山の東側にあった村のことです。

さて、翌日、主イエスは、エルサレムに向かわれ、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来た時、二人の弟子たちを遣わされます。

「向こうの村へ行きなさい。ろばと一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、私の所に連れて来なさい。」

『このことが起こったのは、預言者を通して語られたことが成就するためであった。娘シオンに言え。「見よ、あなたの王があなたの所に来る。柔和な方で、荷ろばの子である、子ろばに乗って。」』

この預言は、ゼカリヤ書に書かれています。二人の弟子は、子ろばの背の上に、自分たちの上着を敷きました。それを見ていた多くの群衆の人々が同じように自分たちの上着を道に敷いたのです。

また、シュロの木の枝を切って道に敷く人たちもいました。これらは、最高の敬意を表わす行為であるとされています。

さて、この「シュロの日曜日」におけるエルサレム入場は、何を意味するのでしょうか。予言の成就を表わしていることには間違いありません。そして、主イエスが、王の王として、神の御子として、公に、聖都エルサレムの人々に、明確に示された瞬間でもあるのです。

この時、彼らは、心から主を信じ受け入れ、迎え入れたに違いありません。しかし、その5日後には、同じ群衆が180度変わって叫ぶのです。「十字架につけろ。」と。救いは恵みです。しかし、主イエスに、私たちは留まる必要があるのです。主は、そのことについて、最後の晩餐の直後に、弟子たちにその真理を教えています。

『「私にとどまりなさい。私もあなたがたの中にとどまります。」と。』

お知らせ

※次回は4月7日(日)は午前10時から行ないます。日本国際飢餓対策機構主事の近藤高史先生が、報告とメッセージをして下さいます。